

令和4年度（令和5年度実施）事務事業評価表

事業整理番号 1301 政14

事務事業名	SDGs達成の担い手育成事業	担当組織	教育部	庶務課
-------	----------------	------	-----	-----

事業特性											
事業を構成する予算事業	事業開始年度	3年度	事業終了年度		計画／一般	計画	計画事業No.	4	4	2	1
	単独／補助	区単独事業	運営形態	直営	関連するSDGsのゴール		3	4	11	17	
① SDGs達成の担い手育成事業経費					②						

政策体系（令和4年度基本計画）			
地域づくりの方向	子どもを共に育むまち	政策	家庭と地域の教育力の向上
施策	地域と学校の連携・協働の仕組みづくり【重点】	政策番号	4-4-2
関連する個別計画		計画策定年度	計画期間

1. 事業の概要・指標の達成状況

(1)実施の対象 (具体的に記載)	学校、児童、生徒、教職員、保護者、地域								
(2)事業の目的・期待する効果	未来を担う子どもたちが持続可能な社会の担い手となるよう、SDGs達成に向けた教育の充実を図るとともに、学校と保護者・地域・企業などが連携した取り組みを推進・発信し、持続発展都市の実現を目指す。								
(3)事業概要	区立学校が各校の特色を生かしながら保護者・地域・企業・大学などと協働でSDGs達成に向けた取り組みを行うことで、子ども、大人もともに、世界の問題、地球規模の目標を自分たちの課題ととらえ、「自分ごと」化し、行動に移す人材を育成する。								
(4)目標の達成状況	4年度の取組内容 4年度に実施した具体的な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校全30校によるSDGs達成に向けた取り組み ○学校SDGs推進アドバイザー等による学校支援 ○SDGsフェスティバル、SDGsチャレンジウィークによる取り組み発信 							
	成果指標 事業目標の達成度	成果指標	目指す方向性	単位	3年度 (実績)	4年度 (計画)	4年度 (実績)	5年度 (計画値)	
		①「学校で子供たちと一緒に取り組んでみたいか」に肯定的な回答割合	↗	%	—	90	96	107%	95
		②「SDGsへの興味・関心が高まったか」に肯定的な回答割合	→	%	98	98	98	100%	98
		③							
	指標の説明	①SDGsフェスティバル観覧者アンケートにおいて「学校で子供たちと一緒に取り組んでみたいか」に「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答した割合②同アンケートにおいて「SDGsへの興味・関心が高まったか」に「高まった」「やや高まった」と肯定的に回答した割合							
	未達成の状況	達成	未達成または一部未達成の理由						
(5)取組実績	活動指標 事業の実施状況	活動指標	目指す方向性	単位	3年度 (実績)	4年度 (計画)	4年度 (実績)	5年度 (計画値)	
		① 取り組み学校数	→	校	30	30	30	100%	30
		② SDGsフェスティバル開催回数	→	回	1	1	1	100%	1
		③							
		指標の説明	①SDGs達成の担い手育成事業に取り組む区立学校数②芸術文化劇場で学校の取り組みを発信するSDGsフェスティバルの開催回数						
	未達成の状況	達成	未達成または一部未達成の理由						

2. 事業費の推移

単位 (金額の項目:千円 人数の項目:人)	3年度		4年度			5年度		
	予算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減 (R4決算比)	
事業費	A	100,000	51,969	48,030	37,278	78%	16,800	-20,478
人件費	【正規(人数)】	—	(0.28)	—	(0.28)		(0.48)	—
	【会計年度任用職員等(人数)】	—	(0.00)	—	(0.00)		(0.00)	—
	人件費 B	B	—	2,338	—	2,338		4,038
事業費(人件費含む)	C=A+B	—	54,307	—	39,616		20,838	-18,778
財源内訳	国、都支出金		0	0	0		0	0
	使用料・手数料	D	0	0	0		0	0
	地方債・その他		0	0	0		0	0
	一般財源	E=C-D	—	54,307	—	39,616		20,838

3. 総合評価及びR5年度以降に向けての対応・改善策

【指標の達成状況(a)】
→S、A、B、C、Dの5段階で評価 **A** 根拠 指標を達成している。

※上記の達成状況を踏まえ、評価及びその根拠を記載してください。
※以下の欄には、①目標に対する成果結果の課題、②指標以外の数値では測れない効果について記載してください。

(1)令和4年度成果と課題

①目標に対する成果状況を踏まえた課題
学校現場の過度な負担とならないよう持続的な実施体制、継続的な支援体制が必要。SDGs教育活動の継続と充実、外部人材の活用のため継続的な予算措置が必要。

②指標に表れない事業の成果(指標以外の成果)
地域とともにSDGsに取り組むことで、これまで以上に地域とのつながりが深まり、それぞれの学校で特色ある教育を展開することができている。

【業務(事務)改善に向けての取組み(b)】
S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒ **A** 根拠 SDGs達成に向けた教育の充実のため、校長会、副校長会等を通じて各学校からのニーズ、特色のある具体的な取組み事例を把握し、予算を配布していく。

※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。
※昨年度に何らかの対応、改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。

(2)業務(事務)改善に向けての取組み

①目標に対する成果状況を踏まえた課題(再掲)
学校現場の過度な負担とならないよう持続的な実施体制、継続的な支援体制が必要。SDGs教育活動の継続と充実、外部人材の活用のため継続的な予算措置が必要。

②現状の実施状況における所管課の認識

事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択の理由	
直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択の理由	専門性、効率性を考慮し、外部人材の活用や外部委託を行っている。
サービスに係るコストは適正か	適正	選択の理由	必要最低限の経費で実施している。
統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	有	(有の場合)事業名	環境教育支援プログラム(環境政策課)

③上記①、②を踏まえた所管課の対応実施状況

対応、改善を既にを行った	いいえ	はい	取組内容及び効果	予算措置
対応・改善予定(上記ではいい場合は更なる)	有	無	対応、改善の予定がない理由	
選択肢に関わらず	有	無	教育委員会と環境政策課の連携、事業の整理の検討	予定時期 R5
	有	無	予算措置を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由

【区が実施する必要性(c)】
S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒ **A** 根拠 子供達が、地域の企業、大学、区民ひろば、商店街、消防団などと協働することで、SDGsを肌で感じ学ぶだけでなく、地域との繋がりを形成するものとしての役割も果たしているため。

※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。
※「区の他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。

(3)必要性/優先度

①区が実施する理由(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック	<input type="checkbox"/> 法律の要請を受けて行う事業である。
<input type="checkbox"/> 民間事業者等に同様のサービスがない。	<input type="radio"/> その他(理由) SDGs未来都市として取り組む責務がある。

②区民ニーズ

区民ニーズを表す指標	無	有	指標番号(活動)	指標番号(成果)	サービス利用者数
			推移	推移	

「有」「無」ともに記入

区民ニーズに対する認識 温暖化や気候変動を始めた地球環境における深刻な課題など、世界全体が共有する危機感が高まっている。SDGs未来都市である豊島区は、子どもの未来のためSDGsに取り組み、持続的な社会を築くために重要な役割を果たすことが期待されている。

総合評価(d=a+b+c) **ランク1**

4. R5年6月末時点の状況

①令和5年度当初の課題・ニーズ	温暖化や気候変動を始めとした地球環境における深刻な課題など、世界全体が共有する危機感が高まっている。SDGs未来都市である豊島区は、子どもの未来のためSDGsに取り組み、持続的な社会を築くために重要な役割を果たすことが期待されている。
②国・都の動き（関係法令の改正・補助金の創設・方針の変更など）	豊島区は内閣府より令和2年7月「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定。
③令和5年度の方向性・取組方針（事業展開）	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げ期と位置づけた令和3・4年度は学校と保護者、地域などが協働で取り組むための基盤を築いた。 ・令和5年度は推進・発展期と位置づけ、各校の地域に根差した特色ある取り組みの充実・定着を図る。 ・アドバイザーの助言の下、自然体験を中心とした学校における環境教育プログラムを支援する。 ・「SDGsフェスティバル」と学校での「SDGsチャレンジデイズ」で情報発信を継続することで、SDGs達成の機運醸成を図る。 ・新たに池袋幼稚園でSDGs×アトカルによる幼児教育・保育の実践・研究を行う。
④令和5年度の事業進捗状況（6月末時点）	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校は、SDGsの取組について教育課程に位置付け、教科指導等との関連付けを図り、取り組んでいる。 ・第10回SDGs達成の担い手育成事業推進プロジェクトチームを開催（6月）
⑤区民等からの事業に対する意見・要望	SDGsフェスティバル来場者アンケートでは、子どもたちの取組みが伝わったと回答の方が90%超、SDGsへの興味・関心が高まったと回答した方も90%を超えているなど、SDGsへの関心の高まっている。
⑥上記⑤に対する対応	引き続き教育委員会は、各校の特色を生かした保護者・地域・企業・大学などとの協働によるSDGs達成に向けた取組みを支援する。

今後の事業費予算要望(e)	現状維持	根拠	ビオトープ整備など環境教育プログラムの展開、専門人材による学校教育の支援を継続・充実するため。
---------------	------	----	---

今後の事業の方向性(d+e) (現状の評価および施策評価を踏まえた評価)	B:改善・見直し
---	----------

《上記判断を踏まえた所管課の認識・R5年度以降に向けての対応》

本事業を通して、地域とともにSDGsに取り組むことで、これまで以上に地域とのつながりが深まり、それぞれの学校で特色ある教育を展開することができている。地域に根差した取組の実践により、子どもも大人も一緒になってSDGs達成に向けて行動を起こすことに繋がっている。2年間で立ち上がった活動を一過性のもので終わらせることなく、学校と保護者、地域、大学が協働で活動し続けられるよう、取組を継続していく必要がある。なお、令和7年度で全小中学校のSDGsフェスティバル出演が達成されるため、令和8年度以降の啓発、発信方法については改めて検討していく。